

ち ぼ し ぼ ん
千葉市版

こ け ん り
子どもの権利



たいせつ じぶん
大切な自分

たいせつ
大切なあなた

じ た じんけん たいせつ あんしん せいかつ
自他の人権を大切にし、みんなが安心して生活できる

こうどう
行動がとれるようになりましょう。

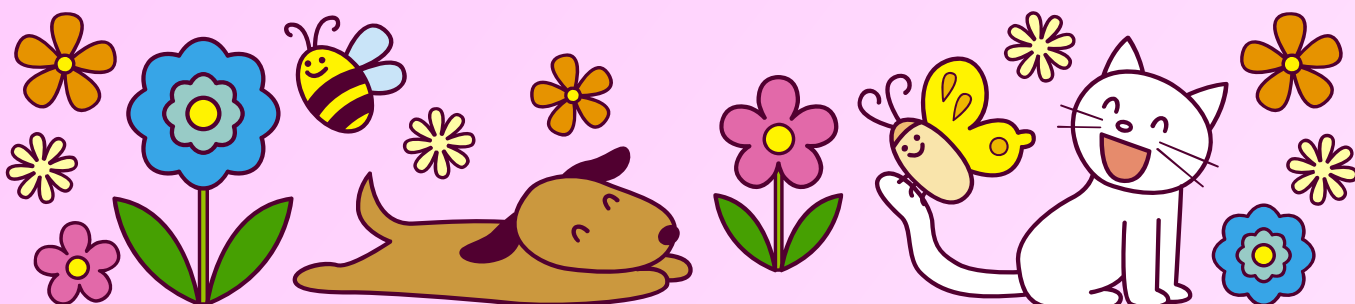
ち ぼ し きょういくいいんかい
千葉市教育委員会

はじめに

このリーフレットには、子どもが
安心して、自分らしく生きていくた
めに、大切な子どもの権利について書いてあります。



千葉市の子ども達は、私たち大人
の誇りです。一人一人が大切な宝
物です。大人は、みなさんが幸せに暮
らせるように、みなさんの権利を守っ
て、一人一人を大切にし、子どもにとって一番良いこと
を考えます。すべての子ども達が、親や大人から大切に
にされ、愛情をもって育てられ、健やかに成長するよ
うに応援していきます。





こどもには権利があります



すべてのこどもには、生まれながらもっている

たいせつ
大切なものがあります。それは「権利」です。

こどもの権利とは、世界中のすべてのこどもが、
しんしん けんこう じぶん そだ けんり
心身ともに健康に、自分らしく育つための権利です。

そして、このこどもの権利の基本は、『こどもの権利条約』に
さだめられています。正式名称は「児童の権利に関する条約」。

『こどもの権利条約』は、「こどもにとって一番いいことは何
なのか」「みんなが ^{しあわ}幸せに生きていくために、^{おとな}大人はどうし
たらいいか」ということを、^{せかいじゅう}世界中の^{くに}国の
^{ひと}人が^{あつ}集まって考えた条約です。

こどもの権利条約は、4つの原則に基づいて定められています。

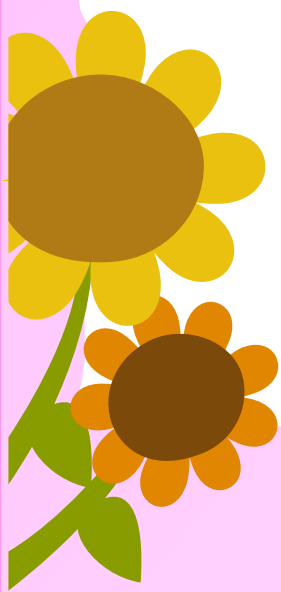
- いのち まち ^{せいちょう}成長できること
- ^ここどもにとって ^{もっと}最もよいこと
- ^{いけん}意見を^{ひょうめい}表明し^{さんか}参加できること
- ^{さべつ}差別の^{きんし}禁止

こ けんりじょうやく 子どもの権利条約はいつできたの？

😊 1989年（平成元年）の国際連合の総会で「児童の
けんり かん じょうやく
権利に関する条約」ができました。条約とは国と国との
あいだ やくそく
間の約束です。この条約は、18歳未満の全ての子ども
たいしょう
を対象としています。

😊 こ ひと けんり じゆう さんちょう こ たい
子どもの人としての権利や自由を尊重し、子どもに対
するほご えんじょ そくしん めざ
する保護と援助を促進することを目指しています。日本
は、1994年（平成6年）4月にこの条約に入りました。

😊
せかい
世界には、ひんこん う せんそう ぎゃくたい じょうたい
貧困、飢え、戦争、虐待などのつらい状態
におかれ苦しんでいる子どもがたくさんいます。この
じょうやく かっこく げんじつ め む こ
条約は、各国がこうした現実に目を向け、子どもたちの
じんけん さんちょう くに くに やくそく
人権を尊重することを国と国とが約束しています。



こ けんりじょうやく 子どもの権利条約には

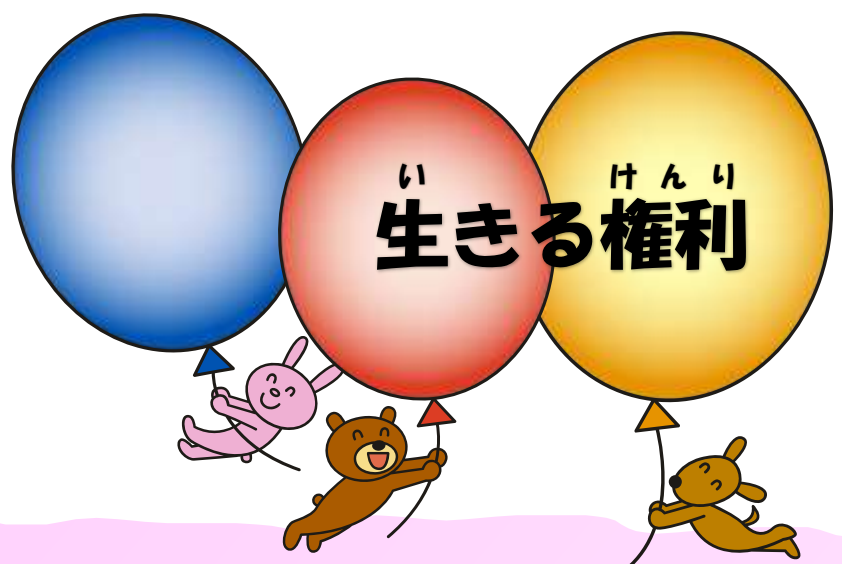
どんなことが書いてあるの？

こ けんりじょうやく じょうぶん やくそく か
子どもの権利条約の条文は、54の約束が書かれています。
おお わ けんり
大きく分けて4つの権利にまとめています。



いのち まも あんぜん あんしん
○ 命が守られ、安全に安心
して暮らせること

びょうき とき びょういん
○ 病気の時に、病院などで
てあ う
手当てを受けることができること

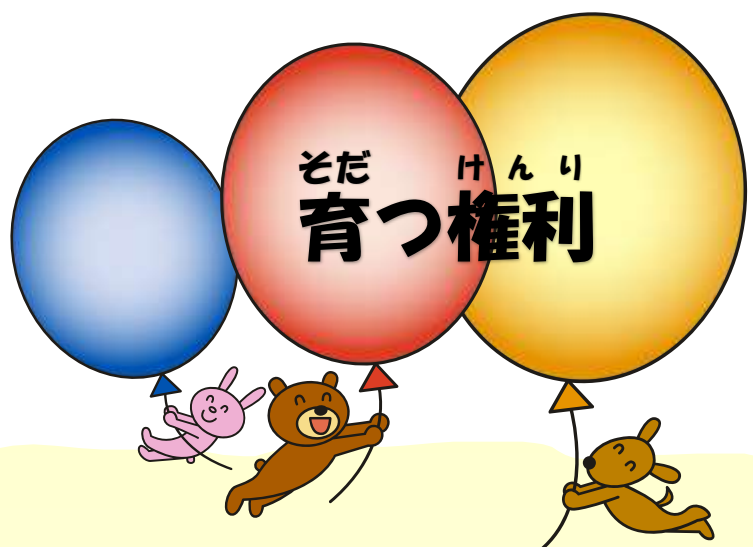


きょういく う
○教 育 を受けられること

あそ げいじゆつ
○遊 び、ス ポー ツ、芸 術 など
たの
を 楽 し め る こと

つか やす
○疲 れ た と き に、休 む こ と が
で き る こ と

しっぱい なんと やり なお
○失 敗 し て も 何 度 で も や り 直
せ る こ と



ひとりひとり

○一人一人のちがいをみとめ、
ありのままの自分が大切に
されること

ぎゃくたい

たいばつ

へんけん

○虐待、いじめ、体罰、偏見、
差別などから守られること

さべつ

まもられる

○つらく困ったときには、安心
して相談できること

こま

あんしん

そうだん

○体や心が傷ついたとき、

からだ

こころ

きず

かいふく

てあ

回復するまで手当てをして
もらえること



じぶん いけん たいせつ う と
○自分の意見を大切に受け止
められること

はな あ き
○みんなで話し合って決める
こと

かんが かん じゆう
○考えや感じたことを自由に
ひょうげん
表現できること

なかま しゃかい かつどう さんか
○仲間と社会の活動に参加で
きること

しゃかい いちいん こ
○社会の一員として、子ども

たちば いけん い
の立場で意見を言えること

さんか けんり
参加する権利



^こ子どもの^{けんり}権利は、^{せかいじゅう}世界中の^こ子どもたちがみんなが、

^{おな}同じくもっている^{たいせつ}大切なものなんだよ

みなさんが、このように^う生まれながらにもっている^ああたりまえのものを「^{けんり}権利」といいます。

^{ひと}人はみんな「^{けんり}権利」をもっています。

「^{けんり}権利」は自分だけでなく、あなたの友^{とも}

達も^{だち}「^{けんり}権利」をもっています。自分とお

なじように、ほかの人を^{ひと}思いやる^{おも}気持ち^{きも}

をわすれず、^{たす}助け合^あってください。

かけがえのない^{いのち}生命

～わたしも^{たいせつ}大切

あなたも^{たいせつ}大切～



つらいこと、いやなことをされたらどうする？

みなさんが、つらい^{おも}思いをしたり、いやなことをされたりしたときは、^{がまん}我慢しないで、

「いやだ」っていおう。

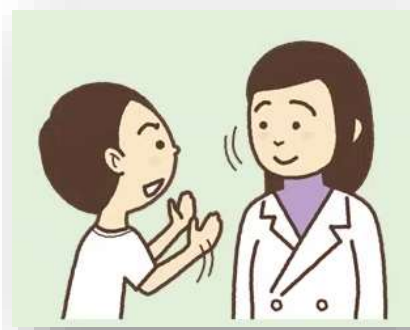
^に逃げてもいいよ。

^{あんしん}安心できるおとなにお話^{はなし}（相談^{そうだん}）しましう。

いやだと言^いっていいよ

^に逃げていいよ

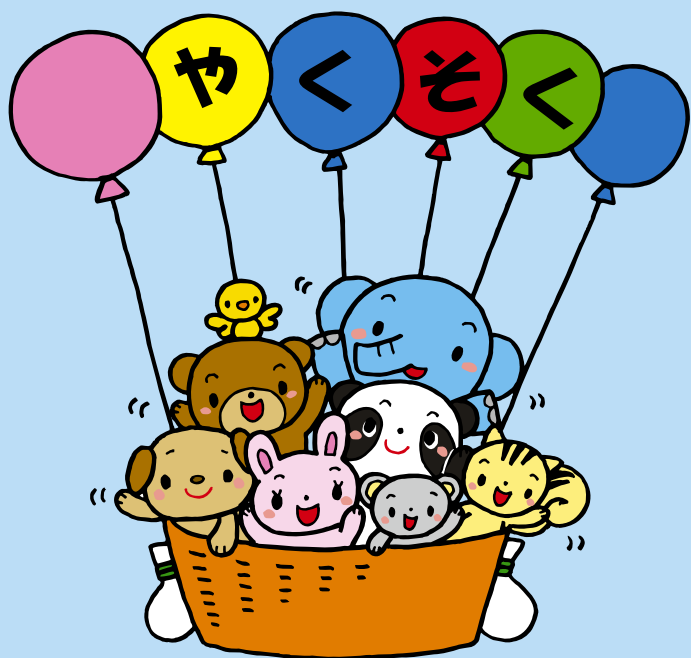
そうだん
相談してね



こ しょうだんまどぐち しょうかい
子どもの相談窓口を紹介するよ



こ どもにこにこサポート



◆ヒミツは守るよ

◆どんなことも一緒に考えるよ

◆なまえは言わなくてもいいよ

◆料金はかかりません

こ どもにこにこサポートは、こ どもの
ための相談先です。先生から体罰（暴力
を受けること、傷つくことを言われるこ
と）を受けたり、先生や友達から性的
ないやがらせ（さわられたりすること）
を受けたり、いじめを受けたりして悩ん
でいませんか？

かかえている思いを誰かに話すこと
で、少しでも楽になるよう、気持ちを受
けとめます。こ どもにこにこサポート
は、電話だけでなく、手紙でも相談で
きます。

でんわ てがみ しょうだん
電話や手紙で相談できます

きょういくしゅくいんか きょういくし えん か
教育職員課（教育支援課）

でんわ
電話：043-245-3008（平日9:00～17:00）

た そうだん
その他の相談



そうだん
SNS相談@ちば

かようび もくようび にちようび
火曜日・木曜日・日曜日

じ じ
18時～22時



ちばしきょういくそうだん
千葉市教育相談

ダイヤル24

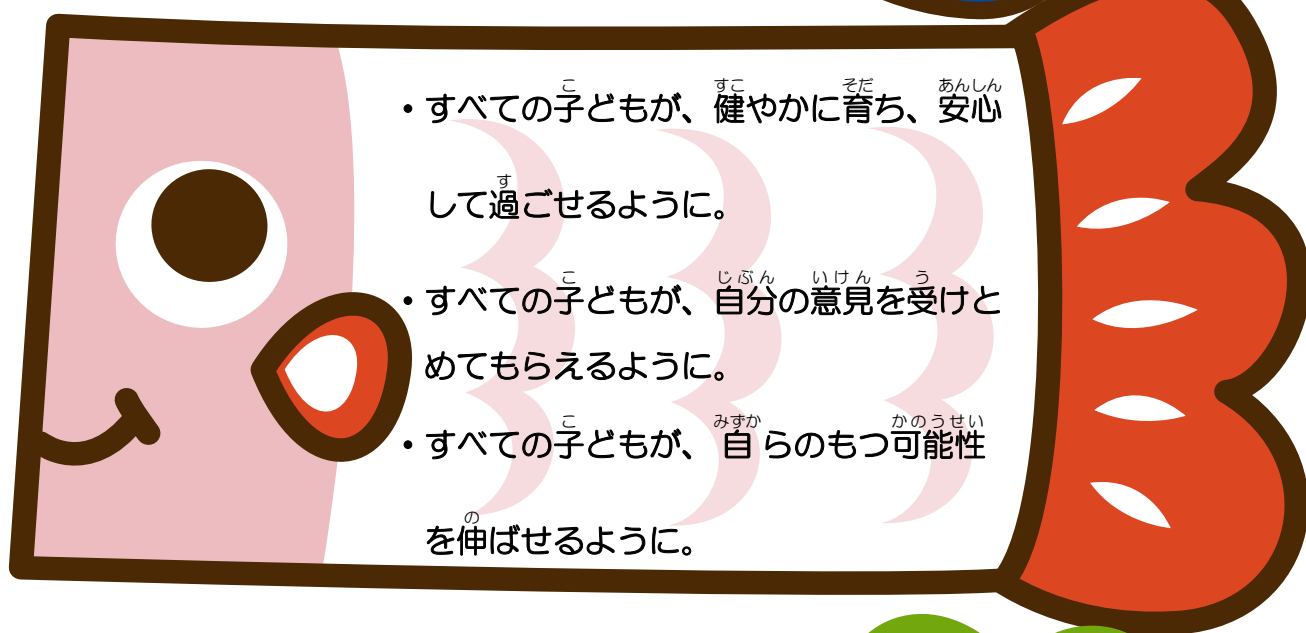
でんわ
電話：0120-101-830

たいおうじかん じかん きゅうじつ やかん
対応時間：24時間（休日・夜間も）

もし、あなたが^{なや}悩みを^{かかえ}抱えていたら、

その^{なや}悩みを^{そうだん}相談してみませんか？

こ しょう ねが
すべての子どもの幸せを願って



こ けんりじょうやく べんきょう じぶん けんり りかい
子どもの権利条約を勉強して、自分のもつ権利を理解できました

か。すべての子どもは、いのちを大切にされ、親や大人に愛されなが

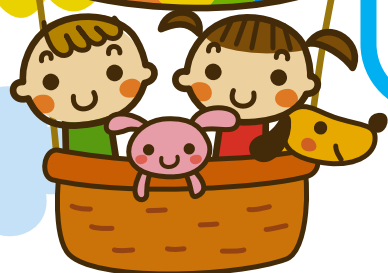
ら、健やかに育ち生きることができます。

こ けん りじょうやく じょうぶん 子どもの権利条約 (条文)

だい じょう 第1条

『子どもの^{ていぎ}定義』

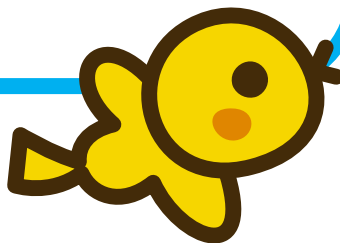
18歳^{さい}になっていない人^{ひと}を子ども^ことします



だい じょう 第3条

『子ども^この最善^{さいぜん}の利益^{りえき}を』

子ども^こに関係^{かんけい}のあることを行^{おこな}うときには、子ども^こにもっともよいことは何か^{なに}を第一^{だいいち}に考^{かんが}えなければなりません

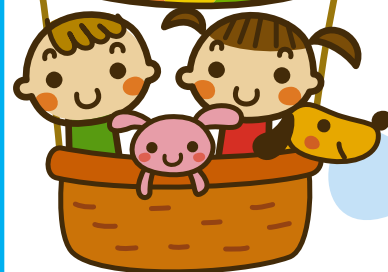


じょうやく じょう な せかいじゅう こ けんこう
条約は、54条から成り、世界中のすべての子どもたちが健康で、
しあわ い
幸せに生きていくことをめざすものとなっています。

『差別の禁止』

すべての子どもは、みんな平等にこの条約にある権利をもっています。子どもは、国のちがいや、男か女か、どのようなことばを使うか、どんな宗教を信じているか、どんな意見をもっているか、心やからだに障がいがあるかないか、お金持ちであるかないか、親がどういう人であるか、などによって差別されません。

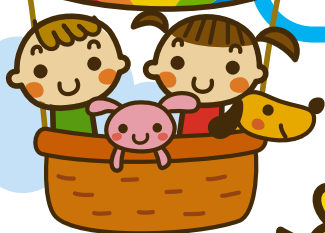
だい じょう 第2条



だい じょう 第6条

『生きる権利・育つ権利』

すべての子どもは、生きる権利・育つ権利をもっています。



『健康・医療への権利』

子どもは、健康でいられ、必要な医療や保健サービスを受ける権利をもっています。

だい じょう 第24条



い けんり
生きる権利

『^{きょういく}教育^うを受ける^{けんり}権利』

こどもは^{きょういく}教育^うを受ける^{けんり}権利をもっています。国^{くに}

は、すべての子どもが^{しょうがっこう}小学校^いに行けるようにしな

ければなりません。さらに^{うえ}上の^{がっこう}学校^{すす}に進みたいと

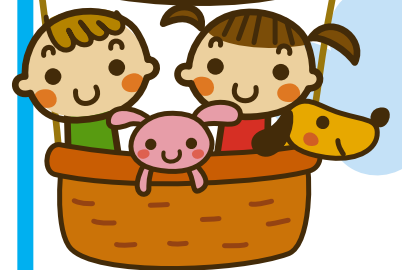
ときには、みんなにそのチャンスが^{あた}与えられなけれ

ばなりません。学校^{がっこう}のきまりは、子ども^この^{そんげん}尊厳が

^{まも}守られるという^{かんが}考^{かた}え方からはずれるものであって

はなりません。

だい じょう
第28条

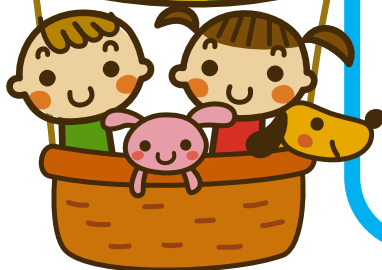


だい じょう
第31条

『^{やす}休み^{あそ}、遊ぶ^{けんり}権利』

こどもは、^{やす}休んだり、^{あそ}遊んだり、^{ぶん かげいじゅつかつどう}文化芸術活動

^{さんか}に参加する^{けんり}権利をもっています。

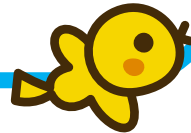


そだ けんり
育つ権利

『^{ぼうりょく}暴力^{ほご}などからの保護』

親（^{ほごしゃ}保護者）が子どもを^{そだ}育てている間、^{あいだ}どんなか
たちであれ、子どもが^{ぼうりょく}暴力を^ふるわれたり、^{ふとう}不当
な^{あつか}扱いなどを^う受けたりすることがないように、^{くに}国
は子どもを^{まも}守らなければなりません。

だい じょう
第19条



だい じょう
第23条

『^{しょう}障がいのある子ども』

^{こころ}心やからだに^{しょう}障がいがある子どもは、^{そんげん}尊厳が^{まも}守ら
れ、^{じりつ}自立し、^{しゃかい}社会に^{さんか}参加しながら^{せいかつ}生活できるよう、
^{きょういく}教育や^{くんれん}訓練、^{ほけん}保健サービスなどを^う受ける^{けんり}権利をも
っています



『^{けいざいてきさくしゅ}経済的搾取・^{ゆうがい}有害な^{ろうどう}労働からの^{ほご}保護』

子どもは、^{はたら}むりやり働かされたり、そのために
^{きょういく}教育を^う受けられなくなったり、^{こころ}心やからだによく
ない^{しごと}仕事をさせられたりしないように^{まも}守られる^{けんり}権利
をもっています。

だい じょう
第32条

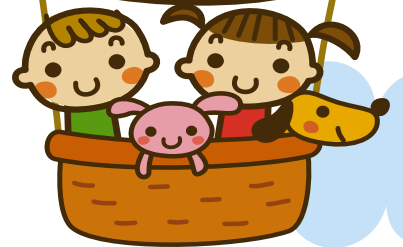


まも けんり
守られる権利

いけん あらわ けんり
『意見を表す権利』

こどもは、じぶん かんけいのあることについてじゆうに
じぶん いけん あらわすけんり
自分の意見を表す権利をもっています。その意見
は、こ はったつ おう じゆうぶん こうりよ
子どもの発達に應じて、じゅうぶん考慮されな
ければなりません。

だい じょう
第12条



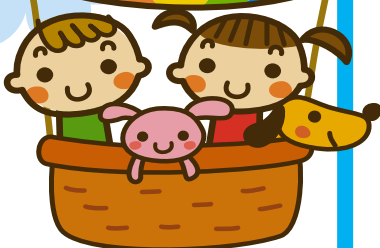
ひょうげん じゆう
『表現の自由』

こどもは、じゆう ほうほう じょうほう かんが
子どもは、自由な方法でいろいろな情報や考えを
つた けんり し けんり
伝える権利、知る権利をもっています。

だい じょう
第13条



だい じょう じょう
第15条・16条



けっしゃ しゅうかい じゆう
『結社・集会の自由』

こどもは、ほかのひと いっしょ だんたい
子どもは、ほかの人びとと一緒に団体をつくったり、
しゅうかい けんり
集会をおこなったりする権利をもっています。

めいよ まも
『プライバシー・名誉は守られる』

こどもは、じぶん かぞく す でんわ
子どもは、自分や家族、住んでいるところ、電話や
てがみ まも
手紙などのプライバシーが守られます。また、他人か
ほこ きす
ら誇りを傷つけられない権利をもっています。



さんか けんり
参加する権利